



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外22号です。表面は、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介と地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望です。裏面は、老健やましろからのお知らせです。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介（第39回）

～骨折で他病院入院中の患者さんをリハビリ目的で受け入れしました～

大腿骨骨折後の患者さんをリハビリ及び環境整備目的で受け入れしました。受け入れする前、中嶋SWと山本退院支援Nsが入院中の医療機関へ出向き、患者さんの様子を直接確認し、また、担当Nsやセラピストから直接、情報を頂戴することができたので、スムーズに受け入れすることができました。

“彩り”入院当初、患者さんは「歩けるかどうか心配」と不安そうな表情を見せておられましたが、理学療法士によるリハビリの他、週末を中心に病棟Nsによる歩行訓練を実施していることで「歩いて安心した」と、少しずつ自信を取り戻しておられるようです。

現在、ご自宅の環境に合わせた動作の獲得と歩行器の選定を行っています。患者さんが安心して退院して頂けるよう関わるスタッフが力を合わせ、8月頃の退院を目標に引き続き支援していきます。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その⑧

地域のケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ訪問させて頂いた際、頂戴したご意見・ご要望と改善策をお知らせします。

*

地域包括ケア病棟“彩り”退院後、スムーズに老健やましろ通所リハビリを利用したい。

（担当ケアマネジャー）

*

退院後、途切れることなくリハビリを受けて頂けるよう、地域包括ケア病棟“彩り”入院中から、老健やましろ通所リハビリの担当者との連携を密にさせていただきます。“彩り”入院中に、患者さんに通所リハビリを見学して頂くことも可能です。まずは「退院後、通所リハビリ希望」とお申し出下さい。即、対応させていただきます。（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

地域包括ケア病棟“彩り”ご入院のお問い合わせ先

0774-73-1818（担当：中野・中嶋）

老健やましろより

～星に願いを～



7月7日は七夕です。七夕は、中国から日本に伝わった星を祭る年中行事で、日本では、奈良時代から行なわれ、江戸時代に一般的に広がったそうです。

老健やましろでも、毎年、利用者様や家族様に短冊に願い事を書いていただき、各フロアで笹に飾り付けをしています。

「お父さんとまた旅行したい」「早く元気になって一人で歩きたい」「何か人のためになりたい。今、お世話になっているお兄ちゃん、お姉ちゃん、ありがとう」「家族が元気で暮らせますように」「早く家に帰れますように」「元気にコーラスを歌いたい」「しっかりと食事が食べられますように」「眼が治りますように」…

老健には、リハビリをして在宅復帰を目指される方、認知症のある方、身体の不自由な方等、様々な方がいろいろな思いを持って生活されています。

老健は『中間施設』であり、この先、それぞれの利用者様に合った生活の場を、利用者様・家族様・施設スタッフが相談し、自宅、特養等の介護施設、病院等に退所されます。老健で生活される時間は、利用者様にとってほんの少しの間かもしれませんが、老健を退所された後も、七夕の日に、老健での生活や短冊に書いた願い事を思い出していただけるよう、皆様の思いを大切にケアを続けていきたいと思えます。(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

地域医療連携室より

～ Hospital Of miracle ～

5月、日本骨髄バンクの語り部事業のボランティアで専門学校に伺いました。伺ったのはエンターテイメント系の専門学校です。今秋、白血病を題材にしたミュージカル「ホスピタルオブミラクル」を上演されるとのこと、そのミュージカルの団結式で自身の体験を話させて頂きました。病状や体調などにより変化する患者の心境を思いのままに話をさせて頂き、皆さん熱心に耳を傾けてくれました。300人の生徒さんの中には、私がドナーから骨髄の提供を受けた“2000年のあの日”に誕生した生徒さんが偶然いてビックリ、私にとってまさにミラクルな瞬間でした。

私の話の冒頭、教職員の先生が、良い演技をするためには「ものごとの本質を理解しようとする姿勢」が大切だという話をされ、大変共感しました。なぜなら、「本質を理解しようとする姿勢」は我々のソーシャルワークという業務ではとても大切なことだと思うからです。一人の患者さんを支援するためには、現在の病気の理解はもちろん、将来どのようなことが予測されるか？ご本人の意向は？これまでの生活歴は？ご家族の協力体制は？家屋状況は？経済状況は？など、いろいろな情報を収集し、あらゆる角度から患者さんを理解する必要があります。そうすることで患者さんにとってより良い支援が可能になります。教職員の先生のお話を聴き、仕事をする上で改めて大切なことに気付くことができました。

この夏、休みなしでミュージカルの練習に励まれるとのこと、秋、成長した生徒さんに会いに、ミュージカルを観に行ってみようと思っています。(地域医療連携室 室長 南出 弦)